

O.S.P



VOL. 6
JUNE

[OSPREY]

S

[SPIRITUAL]

P

[PERFORMER]

無料
ご自由にお取りください

Keep it on the down low!!

—並木敏成が語るあのルアーの真実—
i-Waver 74

The Kotaro's Maxims
ワーミングの極意を伝授!!



O.S.P 動画 随時更新!!

Journal

O.S.Pが誇る
三人のスペシャリストが“旬”を説く!
三人の賢者はこう釣る!!
大塚高志 / 林 晃大 / 三宅貴浩

O.S.Pクロニクル
強裂な引き波で水面を完全制圧!!
BUZZIN' CRANK SERIES



キッズラインが登場!!

ワーミングの極意を伝授!!

O.S.Pで“DoLive”シリーズを手がける川村光太郎が、ワーミングを極めるためのアドバイスをあなたに贈る。今回はドライブスティックの、ノーシンカーリグについて解説しよう。バックスライドを多用したロケではビッグバスが連発!!

ワームがまっすぐになるようにフックをセットすることは大前提!

MAXIMS

ドライブスティックには3in、3.5in、4.5in、そして6inと4サイズあるのだが、バックスライドで使用するものは3.5in以上のもの。フックのサイズは3.5inには2/0、4.5inには3/0、そして6inには5/0がマッチ。注意したいのは必ず、フックがワームに対してまっすぐになるようにセットすること。詳しいセット方法は、右の写真を参照。



FPPストレートを使用する際は、テール側から数えて3〜5番目のリブのあたりにフックポイントを刺し、斜め前に向かって抜く。ラインアイをボディ内部に隠して反転したあと、フックをワームにあてがって、どこに刺せばまっすぐになるかを確認。フックポイントはボディの真ん中あたりで留める



FPPオフセットの場合も最初に刺す位置は同じ。ただしそのあと、フックポイントは真下に向けて刺す。次にボディの中央辺りでフックポイントの向きを前方へ。要はクランクの形状に沿ってボディ内部に埋め込むイメージ。その後、ストレートフックと同様にフックをワームにあてがってからまっすぐ刺す

MAXIMS

勝負のほとんどはファーストフォールボトムについてからはエビの動きを

ドライブスティックのバックスライドは基本的に、最初のフォールでカタがつく、というのは光太郎の弁。フォール中にラインが急に引きずり込まれたり、横走る、もしくは水深がある場所にも関わらず、浅い位置で止まったり… こうしたラインの変化に注視することがこの釣りでは重要だ。またバスの活性によってはフォールで食わない場合もある。そんなときはロッドを「チョン」とあおってやる。これによってエビがキックバックして逃げるような動きを演出しバイトを誘発する。「エビが追われているようなときはビビビビッと水面まで持ってくるのも有効です」。

ノーシンカーリグにとって、糸ヨレは大敵。そこで光太郎は使用前に濡らしたラインを両手で引っ張ってこのヨレを排除。細かいことではあるが、忘れずに実践したい



ドライブスティック

◆3in・3.5in・4.5in・6in◆全31色
バックスライドの釣りでは3.5~6inをフィールドの状況によって使い分けている



MAXIMS

打ち所は多彩! バックスライド分、手前に落とせ

杭やアシ、ブッシュなど、ドライブスティックのバックスライドでの打ち所は多彩。言い換えれば、バスがいそうなどころにはどンドン落とし込め、ということ。ただし気をつけたいのは、バックスライドするという。モノの際にタイトに着水させるとバックスライドを生かすことができない。「バックスライドする距離分、さばを読んで少し手前に落とすことが重要です!」。



目の前に立ちはだかるカバーの向こうでバイト! 12lbフロロの強度を信じながらも、慎重にファイトし、そのサイズを見た瞬間、歓喜の表情!! 手にした一匹は惜しくも50cmに届かなかったものの、見事な個体だった



MAXIMS

最大限にスライドさせるなら入水角度に注意すべし

着水時に頭側から、つまり垂直姿勢で落ちるとそのまま真下に落ちてしまったり、バックスライドの角度にバラつきが出るものが多い中、ドライブスティックは自ら姿勢を立て直し、奥へ奥へとスライドフォールする。だがやはり、水平姿勢で着水するに越したことはない。できるだけ腹側から着水することを心掛けたアプローチを! またバンクの際を狙う際は沖側から手間に来るように着水させることも重要。



頭から着水しても、ドライブスティックは自ら姿勢を立て直してバックスライドする

できるだけ水平で着水させることで、より滑り込むようにバックスライドしていく

画:光太郎

MAXIMS

風や流れが強いときはネイルシンカーを水平に挿入する

風や流れの影響を受けて狙ったところに滑り込ませるのが難しいときは、ネイルシンカーを挿入するとい。ただし、入れる位置が重要だ。「腹側のスリットがはじまる位置から、ボディの下腹に水平に入れること。ウエイトは0.5~1.3gぐらいまで。やっぱりノーシンカーに近いほうが、自然な動きをしてくれますから」。



ネイルシンカーは必ずボディの下腹あたりに、水平に入れる。あまり重すぎるとドライブスティック本来のよさを引き出せないで注意

画:光太郎

MAXIMS

通常のノーシンカーでは広いシェードを効率よくチェック

本来の使い方である、オフセットフックでのノーシンカーリグは、橋の下に広がるシェードのような、広範囲を探るのに向ってつけ。スティックベイト的にトウイチしたり、ときにはフォールでバイトを誘発する。ロッドを縦方向に「チョンチョン」とト

ウイチすると、水深があまりないところではドライブスティックが水面を割ることも少なくないのだが、この動きに火がつくバスも多いという。多彩なアクションで誘えるのもまた、ドライブスティックの魅力である。



こういったシェードをバックスライドではない通常のノーシンカーリグで狙う際は、ドライブスティックの6inを多用。トウイチしたとき、6inならではのクネリがバスの本能を刺激する!!



自発動をまじえたフォールアクションがバスを魅了!

本来、テールをゆらゆらと振り、かつボディはロールしながら沈下するフォールベイトとして、さらにはトウイチした時のライブリーなアクションを生むスティックベイトとして誕生したドライブスティック。オフセットフックにセットしてフォールさせるとき、自発動をまじえながら斜め前方へと泳ぎ進むように沈下する姿を見たとき「フックを逆に刺すとバックスライドするかも……」という川村光太郎のひらめきは、瞬く間に驚異的な釣果となって表れた。この威力、知らなきゃソン!

特にハマるのは、アフターズポーンから夏にかけて。カバーのシェードにバスが浮いているときや、接岸するエビを食っているときこそ、この釣りが最高におもしろい!!

MAXIMS

ポテンシャルを損なわないためにワームは常にまっすぐに保管

ワームが曲がった状態で保管するとクセがつき、本来の性能を発揮できなくなる。ドライブスティックの場合、テールにクセがつくときれいなスイングをしなくなるため、パッケージの中でワームが常にまっすぐになるよう互い違いに収納しよう。またパッケージのジッパーを閉める前に中の空気を抜くことで、遊びがなくなり、並べた状態をキープできることも覚えておくといい。



パッケージを閉める前に空気を抜く。いわゆる真空状態にすることで中の遊びがなくなり、並べたワームが動く心配もない。ワームにクセがつかないようにすることも、この釣りで釣果を伸ばす秘訣!!

MAXIMS

バスがサスベンドする壁を完全攻略するバックスライド

水門やシートバイルなど、壁状のストラクチャーにはバスがサスベンドしていることが多い。こういったスポットこそ、バックスライドの独壇場。バスがどのレンジにいるのか不明なため、フォーリングでゆっくりと長い距離、線で探っていくのがその理由だ。ぜひ、試してみてください。



壁やシートバイルにエビやハゼなどのベイトがついているときはチャンス。ゆっくり落とす釣りで、表層からボトムまで、すべてのレンジを探ってみよう

解説=小田圭太

読

説

O.S.Pが誇る凄腕プロスタッフが解説する
“絶対釣果”を確認するルアーの使い方。
これさえ読めば、今日からアナタもGo-Getter!!



使い方のキホンは、ストレートリトリープという簡単な動作のみ。これでバスを誘ってくれることこそ、バジクラックシリーズの強み！です。掴みドコロのないフラットウィードなどにおいて、バイブレーションプラグのような感覚で広範囲を巻くだけで、効率よくバスをライズアップしてくれます。もちろん、杭などの縦ストラクチャーがあれば、ここぞという場所でポーズを入れる、ストップ&ゴーといった攻めも非常に有効です。

…有効になるタイミング…

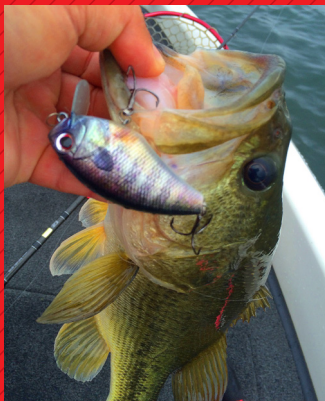
有効となるのは、GW以降のアフタースポーン期からで、スポーンエリア周辺を狙うのがキホンのなエリア選択となります。アシや杭、縦に伸びるウィードなど、縦ストラクチャーを狙うのが一番のキモですね。天候は、やはりローライトから雨の日がグッド！カバーなどに依存せず、バスが広範囲でベイトフィッシュを追っている時こそ、バジクラックのストレートリトリープで手早く探れるという特性が生きてきます。

…もう一匹を釣る小田圭太のシークレット…



釣果をもうひと伸びさせる秘訣は、カラーローテーションにあります。例えば「ワカサギを食べている＝ワカサギカラー」は間違ではないと思いますが、同じエリアを同じルアーで攻める場合は、何度もキャストすればいくら釣れるルアーやカラーでもさすがに反応は悪くなりますね… 自分はクリアレイクがホームですが、意外にアビール系（チャートなど）の出番が多く、タックルボックスに常備して、使い分けていますよ！ 参考になりましたでしょうか？

…基本的な使い方…



バジクラックシリーズには、さまざまなモデルがありますが、その使い分けは、バスとの距離感や水面の荒れ具合、濁りによるところが大きいですね。つまり、バスがルアーを確認するのに阻害する要素が大きければ大きいほど、ハイアピールなモノにシフトしていきます。無風状態のクリアウォーターなら、サイレント。微風、もしくはステインウォーターなら、オリジナルサイズ。強風およびマッディウォーターなら、ダイバジンをチョイス。これに雨天や流れが加われば、ヘビーヒッターというセレクトも有効です。状況によって多彩なモデルを使い分けることができるのも、バジクラックシリーズのメリットです。

…それぞれの使い分け…

バジクラックは全部で6種類をラインナップ。シルエットが小さなコバジンや、対象的に存在感抜群のダイバジン、さらには大きな音を発するヘビーヒッターなど、まさに多彩な品揃えを誇ります。これらは濁りや水面の荒れ具合などを見て、いかにバスにその存在を知らしめることができるのかを考えながら使い分けています。



PRESENT!!!!

セットで1名様に!!

O.S.P
サンシェード
ハット



O.S.P
Tシャツ
モデル15

オリカネ虫

応募方法_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- このパンフレットの率直な感想
- このパンフレットに求める情報
- 釣り歴とホームグラウンド
- O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2015年7月3日。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

毎日更新! O.S.Pのすべてがわかる!!
O.S.P公式ホームページ

www.o-s-p.net

O.S.P Lurefishing Facebookページ
http://on.fb.me/1ivloty

並木敏成の知られざる素顔が明らかに…!?
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」
http://t-namiki.net/

並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」
更新情報 Facebookページ

http://on.fb.me/1iE8UiY

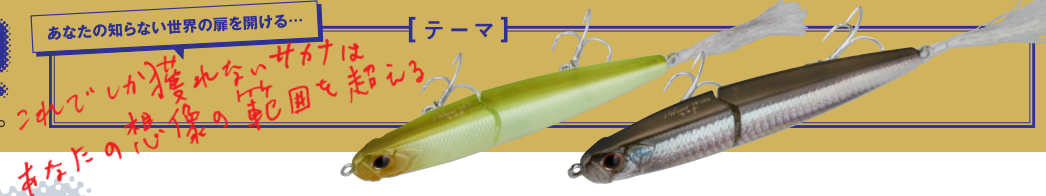
KEEP IT ON THE DOWN LOW!!

これは、ここだけの秘密と、いうことで…

あなたの知らない世界の扉を開ける…

【テーマ】

— 並木敏成が語るあのルアーの真実 — このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。



ここまで普及したバスフィッシングにもあなたの知らない世界は存在する…

バスフィッシングは本当に、パターンにハマるとおもしろいように釣れて、そんな中でもハズしている人には何も釣れない、という事態が起こるゲームだ。

ビッグベイトや虫系ルアーにおいても、そういった状況って存在する。普通サイズのルアーに出てこなくても、ビッグベイトを通したら出てきたり（食わないにしても）。また、沈んでいくスモラバやノーシンカーには鼻っ面まで見に行くにも関わらず、バイトには至らない。しかし虫系ルアーを浮かべているだけで簡単にバイトしたり…

今回ご紹介するi-Waverも、そんなルアーのひとつ。ほかのルアーでは見向きもしないバスが、i-Waverだけに強烈な反応を見せることがある。しかし、I字系の釣りはみんなから見ると、まだまだ馴染みは薄いだろう。つまりバスフィッシングにはあなたの知らない世界がまだ存在し、その代表例がi-Waverの釣りである。



究極のマッチザベイト、それがi-Waverの釣り

i-Waverを使う状況として、ひとつめはダイニングフィッシュが水面や水中に漂っているとき。虫を食っているバスに対してノーシンカーやスモラバでは反応しないのに、虫系を入れると一発という状況があるように、いわば究極のマッチザベイトとして投入する。もうひとつは水面や水中にi-Waverを長時間、漂わせることでラインの存在を断ち切り、同時に放置することで、バスへの焦らしという効果も生む、というもの。そんな使い方だからこそバスを騙せる、限りなくオンリーワンのテクニクだといえるだろう。

「I字系はつけてくるけど、なかなかバイトしない」という話をよく耳にする。もし、何を投げてもバスがつけてくる状況において、リップつきのミノーで同じだけのチェイスをとれるのであれば、確かにミノーのほうがバイト率は高いと感じることも多い。

ただしI字系だからこそつけてくる、という状況においては、ほかのルアーではチェイスすらない。ルアーおよび、ラインの存在を見切っていて、端から反応しないのだろう。

水面で横を向いて浮く構造は単にマッチザベイトだけではない

ダイニングフィッシュの多くは水面で横を向く。そのマッチザベイト的狙いがi-Waverにはあるのだが、これよりもむしろ、使用感と使いやすさ、つまり釣るための要素としてこの構造を採用した。これはどういうことかという、まずはこうすることによって、I字という極めて波動がゼロに近いルアーゆえ、バスの視覚にアピールするしかない。下から見上げているバスには当然、

横向きのほうがアピールできるだけでなく、上にいるアングラー側からも見やすい。

そしてもうひとつ。ジョイントを左右ではなく上下に折れ曲がる構造にしたことで、ラインテンションを張ったり弛ませたときの魚にとっての違和感（ルアー全体の揺れ）を排除できる。また、このジョイントは下方向により大きく曲がるものの、上にはあまり曲がらない設計であるため、ルアーの浮き上がりを抑え、狙った層をキープできるようにもしている。アングラーがラインによってルアーを引っ張ったとき、やや下方向へ潜ろうとすることでバランスをとるのだ。さらに、ボディも前部と後部でウエイト調整を施していることも追記しておこう。

また、特にフローティングモデルにおいて、ボディ前部が水中に垂れ下がることでブレーキとなり、手前に寄ってきにくくなる。ペントミノーでも同じことが言えるのだが、これもまた、i-Waverが他のI字系を圧倒する釣果を叩き出す秘密のひとつなのだ。



次にフックについて。この手のルアーではテールをちょっとつくだけでUターンしていくバイトが非常に多く、ボディ後部にもフックを搭載しておかないと、そういったバイトは獲れない。そこで前後のフックが絡まないように設計し、2本のトリプルフックを装着した。実際、手にできるバスの数を鑑みても、2本フックを搭載したことによる効果は非常に大きいと思う。

そして、i-Waverの特長ともいえるテール。フライフィッシングなどで使われる特殊な素材を装着しているのだが、これはルアーが止まっても、まるで生きているかのようにわずかな水流で自発的に動く。色こそ違おうが、糸ミミズの集合体に見えなくもない。また、ルアーを動かせば小魚の尾びれのようにアクションする。ただし動きのいい素材ゆえ、何匹かのバスをキャッチすると、繊維が減ってくることもある。そのため、この特殊繊維のスベアを標準装備しており、リタイの説明書も同封している。もしわからない方がいれば、O.S.P動画でも解説しているのでそちらをご覧ください。

FとSSSをどう使い分けるのか

FとSSSの使い分けは、ワカサギやコアユなどが産卵後、瀕死の状態で水面に浮いているようであればFを。それらベイトが水中で漂っているときはSSSをチョイスする。また夏にかけて、例えば川やリザーバーのバックウォーターのようなカレントがあるエリアで、バスが非常にセレクトティブなときはSSSを水中に流してやる。ラインの存在を気づかせにくく、これじゃないとバイトに持ち込めないことも多いのだ。

逆に、水面にベイトがピシャピシャするほど多いときはF。水中を漂うSSSやノーシンカーは見切っても、バスが下から見たとき、一部しか見えないルアーは見切られにくく、バイトさせやすい。夏はより、Fモデルの確率が高くなることも覚えておきたい。

確かに、マイラーミノーを横方向に動かすビクビクなどは、すごく効果が高い。しかし、ときに人為的なシェイクを入れると見切られたり、水についているラインがシェイクによって水切り音を発する。いくらルアーがなまめかしく泳いでも、ラインの存在をバスに悟られてバイトに持ち込めない。だからホットケ、要は

流すだけでラインの存在を気づかせないことが重要だ。

色選びはベイトに合わせる考え方とアングラーとバスからの見やすさの二通り

カラーについて。考え方はベイトフィッシュに似せるというのと、アングラーの視認性という大きくふたつ。バスが「イケイケ」のときはバスにとって視認性の高いバナナフィッシュや黒金オレンジベリーなどをチョイス。このルアーはソルトウォーターでも実績が高い。パチ抜けのときは、夜釣りというのもあってホタル（黒系）やチャート系カラーがメバルやシーバスに非常に効いた。しかし、夜の広大な海でも、同じ場所で何匹も釣ろうとするなら、最終的には地味な色、もしくはリアルプリント系（そのときはリアルアユ）が、まわりでバイトがなくなった中でも釣れ続いたことをお伝えしておこう。

ベイトに近い、という点から考えると、サカナの多くは腹が白であり、バスが下から見上げたとき、やはり白が目に入る。この白は水上から見ているアングラーの目にも留まりやすい。ホワイト系ではゴーストパールが定番だが、それで見切られるときはクリア寄りのシラウオがいい。

ほかに、ゴーストライムチャートも、アングラーの視認性と適度な集魚効果がありながら、バスにははっきりと見えにくいカラーリングが施されている。また、コケのついた石や立ち木が多いところではブラウン系のゴースト、ウィードエリアではグリーン系のゴーストを選ぶのも、カラー選びのキモになる。中でも稚ギルというカラーはゴースト系でありながら、サカナの腹部分を模した銀がアングラーの視認性を確保するだけでなく、バスには見切られにくいという特性を持っている。



さらに、より視認性を高めるために、蛍光色のマーカーをボディ上面に貼って使用することもある。横向きのフラットボディゆえ、非常に貼りやすい見やすいのだが、基本的にはFモデルのみ。これはSSSの場合、少しでも潜っていると蛍光色のマーカーが水面に反射し、バスに見えてしまうことが考えられるため。だからシビアなときに、派手なマーカーをSSSに貼って使用する場合はFモデルより小さめに貼ることを心がけている。



i-Waverに適したラインとスナップを装着する理由

ラインは基本的に、フロロの4lbをチョイス。スーパークリアウォーターや、バックウォーター近くで流れを受けるときなどは3.5lbを使用する。ここ一番の大勝負で3lbにすることもまれに

あるが、だいたい3.5lbか4lb。アベレージサイズがいいとき、もしくは横風や流れを気にせずに強い攻めを展開できるような状況であれば4.5lbにすることもある。

また、i-Waverをもっと飛ばしたい、というときはPEの0.3～0.8号を選択することも。リーダーは4～5lbのフロロで、その長さはリールに結び目（結合部分）を巻き込まない程度、というのが目安になる。

PEとフロロの使い分けとして、こんな例もある。基本的にまっすぐただ巻きするよりは、ラインが弧を描くように引いたほうがいい。風を利用して、ラインが適度に弧を描くように着水させることで、このような引き方を実践できる。PEラインは風に流されやすいため、微風するときなど、あえてPEを選択することもある。逆に風が強いとき、PEでは流されすぎる、もしくは弧が大きくなるため、ここではフロロカーボンをチョイスする。

5月中旬の松原湖のロケでは、まさにこの釣りがハマった。急角バンクのギリギリにスレっからのビッグワンが見えたのだが、沖から見ていたため、バンクと並行に引くことはできない。まず



は一投目、i-Waverを一度バンクに当てて静かに着水させた。そのまま沖へと泳ぐコースで引いてみたら見切られたため、今度はアプローチを変えてみた。次のキャストでライン（PE）を風に乗せ、ルアー付近のラインをバンクと並行に着水させた。こうすることで自分は沖にいるのだが、ルアーはバンクに沿って真横に泳ぐ。この一投で、老獺かつビッグな一匹をバイトに持ち込むことに成功した。

Fモデルを水面に放置する時は、マシンガンキャスト（ナイロン）の4.5～6lbを使うこともある。フロロでは放置しているとラインが沈んでしまっ、ボトムウィードなどにラインが引っ掛かることもあるからだ。もちろんSSSをナイロンで使用することもある。まして、水面から50cm以内で誘って食わせるときは、トラブルの少ないナイロンがいいだろう。

4月に行った、スーパークリアウォーターのリザーバーでのロケでは、流れに乗せながら一段下のレンジを引いてくる必要があったため、#00のスナップを装着した。このスナップはいわばオモリ代わりで、これを装着することで+50cm分、深い層を引いてくることができる。もちろんこれは使用するラインの太さや引くスピード、そしてディスタンスによって変わってくることも、同時に覚えておいてほしい。

これらすべてを実践することで、あなたがまだ足を踏み入れたことのない、バスフィッシングの新たな世界への扉を開けることができるだろう。





大塚高志 @千葉県・亀山湖

オリカネ虫
(玉虫)

強みを挙げればキリがない!

林晃大 @山口県リザーバー

YAMATO Jr.
(TGサンフィッシュ)

守備範囲の広さはピカイチ!!

三宅貴浩 @関西リザーバー

ベントミノー
(黒金オレンジベリー他)

アグレッシブなバスを一撃!!



6月の亀山湖はアフター、回復、そしてサマーといろんなパターンがある中で、私が好んで使用しているルアーがオリカネ虫です。アフタースポーン



アーリーサマーと呼ばれる6月に、ボクが必ずデッキにセットしているルアーがYAMATO OSPをはじめとするサーフェスプラグです。この時期のバスはアフターから回復して頻りに補食を繰り返して



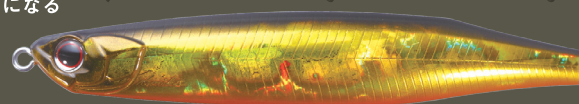
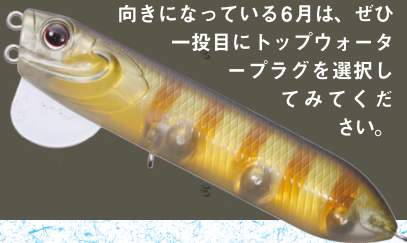
6月といえどこのフィールドでも1年で最もエキサイティングな釣りを展開できるシーズンですが、関西各所のリザーバーでもそれは例外ではありません

三人のローカルが見据える

「今」最も効果的な釣り。



オリカネ虫の特徴でもあるスプラッシュやポップ音で、バスにルアーの存在をアピールすることができるのが特徴のひとつ



にはゴーストアユやスーパーゴースト公魚、ピンクレディなどの太陽光を透過するゴースト系が断然オススメ!

あなたなら、どうする? どうしてる?

釣りに行くための〇〇

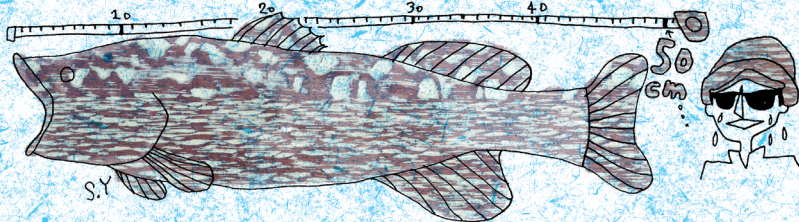
全国のお父さんアングラ様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、**かないません**よね? それは**釣り業界人**とて同じ。だから釣りに行く前には必ず、**こんなこと**、しているのです……

[50cmアップを釣らなきゃ楽しんだことにならない…] ——— プロスタッフ辻井伸也さんの場合

釣りに行くための「覚悟」ということで、お話しさせていただきます。家内と二人の息子を放ったらかしにして、ひとり自由の身。それが私のバス釣りの時間。特に大会に出ることもなく、趣味として20年間続けてきたバス釣りなのですが、現在の私が立ち向かう大きな壁は、やはり家内のご機嫌取りです。「楽しんで釣ってきて〜♪」と快く送り出してくれる家内ですが、課されるノルマは果てしなく高く、数10匹釣って意気揚々と帰ろうが、どんな充実した内容であろうが…。「で?? 50cmアップは何匹釣ったのかね??」 「そんな釣果のために釣りに行かせてやるんじやない! そんなことで並木くんは喜んで

くれるのかね?」 デカバスが釣れなかったときに浴びせかけられる、冷淡な言葉の数々。バス釣りの知識が一切ない家内は「楽しむ」ことは「50cmアップを釣る」ことと勘違いしているようです。「ほほう、なかなかやるではないか!」 50cmアップを釣って帰ったときにいただける、ありがたいお褒めの言葉。そこではじめて

鼻高々、ようやく天狗になれる瞬間なのです。釣果がよくも悪くも家内のご機嫌に直結。釣れたことを一緒に喜んでくれるわけでもなく、どことなく悔しそうで、むしろ釣れなかった時に私をからかって楽しんでいるように見えるのは気のせいでしょうか? そんな理解ある家内への感謝。これが私のバス釣りへの大きな覚悟になっています。



O.S.P. クロニクル

開発担当者が語る、あのルアーの秘密。

第6話 // ASURA O.S.P RUDRA 130 けた外れの異端児が今やO.S.Pの看板選手に

ビッグベイトが空前のブームを迎えていた2004年。7月にはブリッツ、そして10月にはハイピッチャーをリリースしたO.S.Pが次に手がけたのは、13cmというバス用では常識外れのミノーだった。

13cmというサイズでビッグベイトと同様にバスを呼ぶ力があり、なおかつ小魚のシルエットで食わせる。その両方を兼ね備えることを狙って、開発に着手した。

O.S.Pでは新たな製品を開発する際、まずは競合他社の同ジャンルの品をかき集め、それらの性能を徹底的にチェックする。こうすることで、性能に偏りがなくクラスNo.1のアイテムが作り出されてきた。しかしルドラに関しては、そうはいかなかった。なぜなら、ソルトウォーター界にはいくつが存在したものの、バスフィッシングにおいて13cmというサイズのミノーは、ほとんど存在しなかったからだ。

「11cmと13cmって、そんなに大差ないと感じるかもしれませんが、使用感はまったく違うし、既存の13cmミノーではアクション的に食わせられる状況はかなり限られると思いました。開発的に見て、ABS樹脂の特性からしても、その差は非常に大きい。これは同じ土俵ではないな、と思いましたね」と開発担当は語る。

11cmミノーの他社品も「釣れる13cmミノーにする」ために比較対象として手元に置き、13cmミノーという未知の領域へ足を踏み入れた。そして、こう続けた。

「土俵は違えど、11cmから離れすぎないこと。普通に使えば引き抵抗なり、トゥイッチしたときのモタつきなどの面から、これなら11cmのほうが釣れる、ってなると思います。だから11cmから、あまり離れすぎない13cmを目指しました。これは13cmでも11cmのキレを持つルアーを作るということで、ひいては使い手の使用感だけではなく、釣れるルアーになるためのセッティングになるのだ、と思って…」

ソルトウォーター用の13cmミノーをバスフィッシングに応用するアングラーは皆

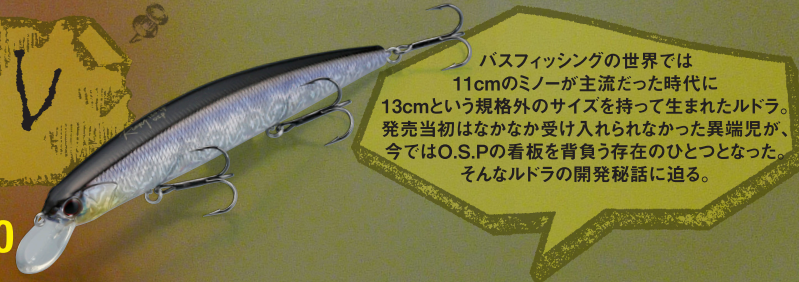
無に等しく、アクション面でも比較対象にならないものばかり。

通常、開発の中盤からときには後半まで、ターゲットを絞った他社品を傍らに置き、テストを繰り返すのだが、ルドラに関しては比較するものがなく、完全に一人旅。加えて、並木はアメリカのトーナメントに参戦中で3ヵ月に一度、帰ってくるというサイクル。また、このサイズのミノーを使われているフィールドもなければ、使っていたテスターもおらず意見を聞くこともできない。果たして、日本のフィールドで釣れるルアーとなるのか。不安だらけの中での開発だったという。

ルドラの正式名称である“ASURA O.S.P RUDRA130”を見てわかるとおり、アシュラの兄弟モデルとして開発をスタート。しかしフラットサイドボディによるフラッシングや飛びのために体積を稼ぐ断面が四角のボディ形状、そして形は違えどジャークしたときに、移動ウエイトがボディ後方までいってしまわないようなストッパーを設けたことなど、随所にアシュラから継承された部分はあるものの、単なるサイズ違いではなかった。

また、アシュラの特徴でもあるただ巻きとトゥイッチ、ダート性能の兼備もまた、ルドラに継承されたもののひとつ。

だが、決定的に違うのはハニカムボディを採用した点。本来、この機構は重心を一点集中させるための技術であり、ただ巻きには最適だがダートには無条件で向いているとはいえない部分がある。またハニカム構造は内壁にさらに壁があるため内寸（ボディ内部の横幅）が狭くなり、移動ウエイトが後ろまで行きにくい。そんなデメリットが浮き彫りになったため、一時は採用の見送りも議論された。しかし並木の、移動ウエイトをひとつではなく径が小さい球を3つ搭載するという提案によってその問題を解消。また、球を3個にしたことで低重心化が図れるという副産物的なメリットも



バスフィッシングの世界では11cmのミノーが主流だった時代に13cmという規格外のサイズを持って生まれたルドラ。発売当初はなかなか受け入れられなかった異端児が、今ではO.S.Pの看板を背負う存在のひとつとなった。そんなルドラの開発秘話に迫る。



ルドラには径が小さい3個の移動ウエイトとハニカムボディを採用した。このウエイトにはハニカムボディの実現だけでなく、低重心化という副産物的なメリットも

あり、ハニカムボディの採用が決定した。

「ほかにはリップを基盤にすることも検討しました。リップは薄ければ薄いほどいい、という風潮があったので。しかし強度的な問題や、クリアウォーターで使うことも考えると、基盤の色も気になる。そこでいろいろ調べてみた結果、どんなルアーでもリップは薄ければいいというものではない、ということに気づいたんです」

ウエイトの位置やリップの角度、形状、厚さ、そして取り付け位置などを徹底的に見直してそれらの問題をクリア。さらにただ巻きとトゥイッチ、ダートの両立を実現。13cmというサイズでありながら、66MHといったごく一般的なタックルで使えるビッグミノーが誕生した。

しかし市場に送り込んだものの、初年度、そして2年目と結果は出なかった。ルドラの直前にリリースしたHPFクランクやブリッツに比べると、初回注文数はその20～25%だったという。カスミや高滝湖のワカサギパターン、そして琵琶湖でもごく一部といったわずかな地域で釣果情報を聞く程度。しかし3年目になってようやく日本全国でルドラのポテンシャルの高さに気づいたアングラーが増え、今では日本国内のみならず、ヨーロッパをはじめとした海外でも活躍している。ターゲットはバスに限らないことも、追記しておこう。

「ロングキャストした先でもしっかり動いているのかを確認するために、透明度が高い富士五湖までテストに行きました。しかも冬。誰の足跡もない新雪の中、雪で埋もれた溶岩の穴を棒で確認しながら進み、足場が高い溶岩に一日中立って、風がない瞬間を狙ってテストをしていました……」

これも発売から10年目を迎えたルドラが、今ではO.S.Pの看板を背負うルアーのひとつになった開発秘話である。